

房総の 文化財

VOL.25

平成13年8月31日
財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850
www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



発掘調査速報

中世の土地造成—酒々井町墨古沢遺跡—

墨古沢遺跡は、東関東自動車道「酒々井パーキング・エリア下り線」の西側に位置しています＝表紙写真＝。平成11年7月から発掘調査が開始され、縄文時代後半（約5,000～2,300年前）から中世までの生活の跡が発見されました。なかでも、中世に行われた台地平坦部の大規模な土地造成は、目を見張るものがあります。

この造成部分は、溝で何力所かに区切られ、その中

に大小の建物跡があり、約60基の井戸がいたる所に掘られていました。また、南側の区域では、中世のお墓と地下式墳（地下室状の大きな穴）約40基もまともに発見されました。

このような建物や施設が使われていた時期は、出土した陶磁器などの遺物から判断すると、15世紀の半ばから16世紀の終わり頃と考えられます。

今回調査した範囲は、南北約300m、東西約80mの範囲（「東京ドーム」の約半分の広さ）ですが、中世の遺跡範囲は、さらに調査地区の外側にも広がる広大なものであったと推定できます。

発掘調査は、まもなく終了しますが、今後、整理作業の中でまた新たな発見があるかもしれません。



井戸跡（中央のベルトは、井戸の埋まり方を観察するためのもの。断面は、漏斗形）



大きな穴の中に葬られていた、馬と思われる骨

遺物紹介コーナー

大きくて不思議な“土偶”

—君津市三直貝塚出土—

縄文時代の遺跡を発掘していると、土製の人形のようなものが出土することがあります。考古学では、それらを「土偶」と呼んでいますが、その形と意味は様々ではありません。この土偶、一般的に女性を表したものが多く、完全な形で発見されることは非常にまれです。

今回紹介する土偶＝写真＝は、平成11年に君津市三直貝塚（本紙24号参照）で見つかったものです。顔の特徴から「ミミズク土偶」と呼ばれており、縄文時代後期から晩期にかけて（約4,000～2,300年前）の関東地方ではそれほど珍しいものではありません。

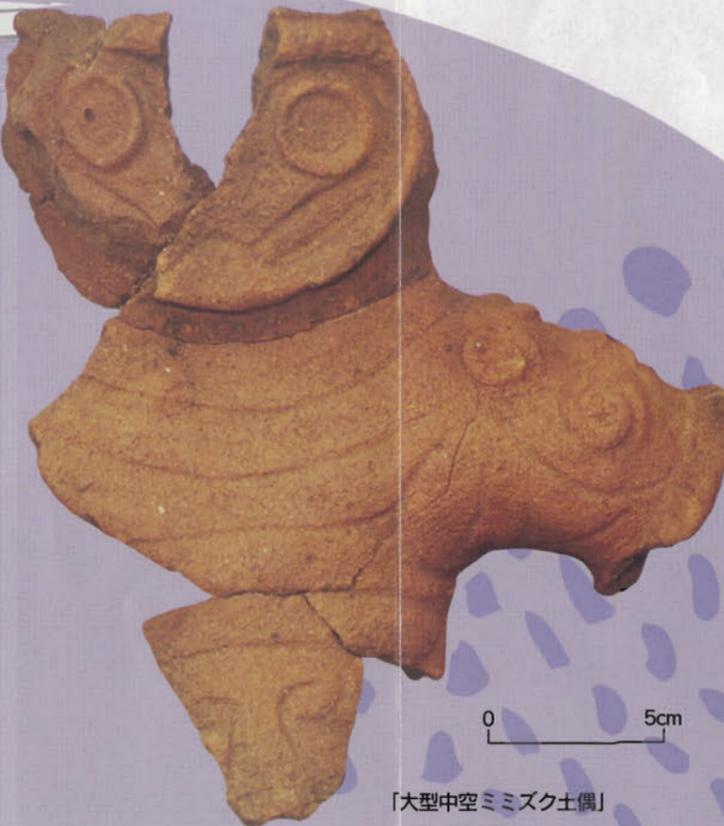
ところが、この土偶の中は空洞（中空）になっており、東北地方に多く見られる作りなのです。さらに、完全な形を推定すると30cm以上はあったと考えられ、現時点で関東地方最大級の中空ミミズク土偶になると考えられます。

このような「大型で中空のミミズク土偶」の出土例は、全国的に見ても今のところでも少なく、大変貴重な発見です。

また、この土偶の表面がボロボロにもろくなっていたことから、当時何らかの理由で激しく火に包まれたことが想像できます。

さて、この土偶には、当時の人のどのような思いが込められていたのでしょうか。

* 我孫子市下ヶ戸宮前遺跡と埼玉県赤城遺跡から同類の土偶が出土しています。



「大型中空ミミズク土偶」

遺跡今昔物語

姿を現した戦国時代の城・小林城跡

印西市の北東部、利根川を見下ろす北総台地の先端に小林城跡があります。県道印西印旛線が通ることになったため、工事に先立って、平成3年6月から平成4年3月まで発掘調査が行われました。

小林城跡は、戦国時代の終わり頃（約400年前）にこのあたりを支配していた千葉氏の一族・原氏に関係のある城ではないかと考えられています。周辺の台地上には竹袋城跡、笠神城跡、中根跡などの同時期の城跡があります。この地は、利根川の水運を利用しやすい場所であり、下総国（今の千葉県北部と茨城県の一部）と常陸国（今の茨城県）の境にあたる重要な拠点だったのでしょう。

発掘調査で、土壘や空堀、門の跡、主郭（城の中心部）が見つかり、城の様子がわかりました。そこからは、中世の土器や陶磁器、石製品などのたくさんの遺物が出土しました。このことにより、15世紀の半ばに造られ、16世紀の終わり頃に使われなくなって破壊されたのではないかとわかってきました。

また、中世の遺物のほかに、縄文時代の土器・石器、古墳時代の埴輪・石棺の一部なども出土しており、この地が縄文時代から利用されていたことも明らかになりました。



▲発掘調査の様子

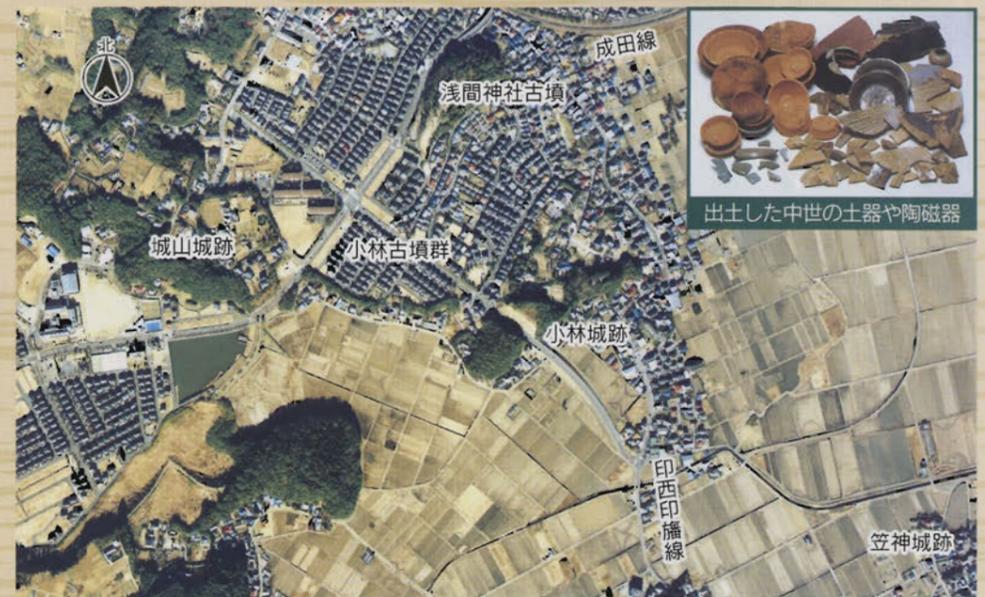


▲現在の小林城跡（南東から）



▲空から見た小林城跡付近（1967年撮影）

▼小林城跡と周辺の様子（2001年撮影/京葉測量株式会社）



出土した中世の土器や陶磁器

BC(紀元前) | AD(紀元後)

日本の時代区分表

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古代

中世

近世

近・現代

(注)日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。

約12000年前 (100年を5mmで表現すると、縄文時代は約50cmになります)

約2300年前

約1700年前

西暦

792

710

奈良時代

1192

1333

鎌倉時代

室町時代

1573

1603

1666

江戸時代

明治

昭和

平成

大正

安土・桃山時代



コラム

レプリカ(複製品)の話【2】

今回は、レプリカとは何かのお話をしました。今回は、レプリカの作り方の一例を説明したいと思います。

《作り方の手順》

1 型取り

出土品をいためないように、箔(金属の薄い膜)を出土品に密着させます。

次に、はじめは液状で、時間がたつとゴム状に固まるシリコーン・ゴムを使って出土品から型をとります。これは、歯科医院で歯型をとるのと同じ方法です。

2 成形

1でできた型の中に合成樹脂を流し込んで固めると、出土品と全く同じ形のものが出てきます。

3 色つけ(仕上げ)

出土品をよく観察しながら、2でできたものに実物そっくりの色をつけると完成です。

以上が作り方の手順です。何となく、たい焼きの作り方に似ていますね。

今後、博物館でレプリカに出会ったら、この話を思い出してください。

シリコーン・ゴムの型を開けたところ



合成樹脂でできた小銅鐸(色つけ前)

シリコーン・ゴムの型



お知らせコーナー

「出土遺物巡回展」開催中

—房総発掘ものがたり—

当センターが発掘調査した遺跡の中から、注目されている遺跡を選び、出土品を巡回展示しています。

会場は、以下のとおりです。

- 県立関宿城博物館 (終了)
- 県立房総風土記の丘 (8/25~9/24)
- 県立上総博物館 (9/29~10/21)
- 県立安房博物館 (10/27~11/18)
- 県立大利根博物館 (11/23~12/16)

皆さまのご来場をお待ちしています。

主催: (財)千葉県文化財センター、上記開催博物館

後援: 千葉県教育委員会

入場料: 無料

問い合わせ: 当センター資料部資料課

Tel 043-422-8811 (代表)



房総発掘ものがたり



埋文レポートコーナー

「香港テレビ(RTHK)」の取材に協力!

香港返還を記念するテレビ番組の取材のため、香港中文大学の鄧聰博士とカメラマンの一行が、当センターで調査中の君津市鹿島台遺跡を5月22日に訪れました。

現場で職員の説明を受けながら、実際に発掘にも参加し、組織的な調査を行っている日本の発掘技術を、丹念に取材していきました。



左から3番目が鄧博士、2番目が黄助手。1番左は、現場の説明をする南部調査事務所の白井久美子副所長。

「土器ツと古代“宅配便”」実施中

当センターが発掘調査した出土品をセットにして、県内の学校や公民館等の社会教育施設に提供し、有効に活用してもらう企画です。

今年度も、4月・5月と多くの申請があり、「本物の土器にさわって、これを作った古代の人と何千年もたつてからふれあえて、とても不思議な感じがしました」(6年女子)、「子供たちのこれからの人生の中で、この感動がどのように展開していくか、楽しみです」(6年担任)、「子供たちが、肌で触れて学習できるなんて素晴らしいことですね」(保護者)以上、本埜村立第二小学校=などの感想が寄せられました。

お申込みお問い合わせは、下記までお願いします。なお、9月から11月にかけて、希望が集中することが予想されますので、早めの予約をお勧めします。

●資料部資料課

Tel 043-422-8811

(代表)



本埜村立第二小学校へ出前授業



四街道市立千代田公民館で説明会(7/31、8/30)

■表紙写真(墨古沢遺跡)の説明

